

# オリーブの会通信

2024年8月20日第45号 (通巻51号)

オリーブの会

大阪府豊能郡能勢町平通101-453

tel/fax;072-737-9454

mail; oribunokai@gmail.com

facebook;oribunokai

## مجموعة الزيتون



### 停戦を望まないシオニスト、 米国の策動

8月19日、米務長官ブリンケンとネタニヤフは会談し、ネタニヤフが新たな停戦案に合意したと報じた。しかし、それはハマスが求める恒久的な停戦とイスラエル軍の撤退とは程遠いものである。ハマスは、これは時間稼ぎでしかないと非難している。ブリンケンも、ネタニヤフは、「橋渡しの合意」に合意したと述べているが、アメリカとイスラエルの橋渡しに過ぎないと批判されている。

イスラエルは、ガザとエジプトの間のフィラデルフィア回廊の支配（ラファ―検問所を含む）と北部ガザと南部ガザを分けるネツアリム軸の支配に固執している。それはエジプト側から物資が入るのを阻止するためであり、この回廊はガザの人々の移動を実質的に制限するものである。イスラエルはフィラデルフィア回廊を支配するために、エジプトとキャンプデービッド合意の修正を求めている。

そこには、ハマスが求めるイスラエルの完全な撤退と恒久的な停戦ではなく、イスラエル軍がガザを支配する体制でしかない。ブリンケンが最後のチャンスと言って

いるのは彼らにとってである。

イスラエルと米国は、即時の停戦を求める、イスラエル内の声、米国内の声、国際世論を無視をしている。停戦ではなく、戦争を継続したいネタニヤフ政権の支援するものである。ハマスは5月のバイデンの提案、国連決議に合意し、追加修正は受け入れないとしている。

一方で、エジプトは、イスラエルとフィラデルフィア回廊から段階的な撤退で合意したと発表した。これがアメリカとの合意に基づくものかはわからないが、エジプトのキャンプデービッド合意に基づくなら当然ことであるが、イスラエルが本気で撤退するかは不明である。その後の報道で、イスラエルはあくまで撤退を拒否しており、エジプトと対立しているといわれている。

そのため、ドーハに続いて、23日にカイロで行われる停戦協議にはなんの意味もないといわれている。

イスラエルは、停戦交渉中でも、連日ガザへの爆撃を

続けて、多数の死傷者を出し続けている。ハマスの拠点と称して攻撃しているが、殺されているのは民間人である。死者は4万人を超え、連日の攻撃でさらに増えており、爆撃で破壊された建物の瓦礫の下には、一万人以上の人が埋まったままである。繰り返し、住民に退去を通告し、住民たちは、何度も、避難しなければならず、イスラエルがいう安全地帯も繰り返し攻撃され、人々は避難する場所もない状態であり、食料、水がなく、衛生環境が悪化している中で、ポリオの発生が確認されている。イスラエル軍は自分たちの兵士にワクチンをうったが、ガザへのワクチンの搬入を認めるといっているが、実際に認めるかどうかは、わからない。ハマスの戦闘員の掃討を口実に、民間人への大量虐殺、さらに医療物資の搬入が阻止されていることで治療も十分に受けられず、また、病院は負傷者であふれ、ベッドも足りず、床で治療する状態になっている。

戦争の継続をもとめるネタニヤフと停戦交渉は、相容れないし、ハマスの壊滅を方針にしており、そのハマスと交渉することはありえない。米国は非難もしていないが、ハマスの交渉担当者をイスラエルは殺害しており、そもそも交渉する意思がないことを示している。イスラエルの人々にとっては、停戦の実現は、人質の解放の唯一の道であり、ネタニヤフは、人命を無視している。人質が殺されているのは、一件を除き、イスラエルの攻撃によるものである。人質の解放が口先だけであることは明確である。人質の命を犠牲にしても、できもしないハマスの壊滅を目指すというのは、だれが見ても、ネタニヤフの政治的な延命のためでしかないことは明らかである。

そして、それを支えているのが米国による軍事支援である。一方で停戦交渉を掲げながらも、もう一方で、虐殺のための武器を提供し続けている。

この戦争で影の薄いアッパース自治政府大統領は、モスクワを訪問、また、ガザへ行く用意があると、ガザの支配に意欲を示している。8月21日のニュースで、アッパースは、ガザへ入る許可をイスラエルに申請したとある。どこの国の大統領なのか、イスラエルの許可のもとにガザに入る大統領をガザの人々は受け入れることはないだろう。パレスチナ全体のイスラエルに対する抵抗闘争を行うという意思を完全に無視し、自らの権力の維持をねらうだけであり、だれも評価はしないだろう。ひざ元の西岸での占領軍、入植者たちの横暴にパレスチナ住民を防衛していない自治政府が、ガザでなにができるの

か、ガザでもイスラエルの手先として、支配することを目指しているとしたか考えられない。

イランは、ハニヤ暗殺への報復を行うことを宣言したが、停戦交渉の行方によると態度を変えている。ハニヤ氏の暗殺はイラン国内で行われたものであり、国家の体面としても、何らかの報復を行うことは必要である。

停戦交渉が進展していないことやイランも戦争が地域に拡大することを警戒している。米国は、空母打撃軍を配備するなど、イランを軍事的に抑止しようとしている。

ヒズボラはイスラエルへの攻撃を強めており、イスラエル国境との間での戦闘が激化している。ヒズボラは自らの軍事指導者の暗殺に対して、イスラエルへの攻撃を強めている。ヒズボラは戦闘のエスカレートを抑えるために、軍事目標への攻撃に限定してきたが、イスラエルが民間人への攻撃を行ってきたことで、入植地への攻撃を行うようになってきている。

イスラエル野党のラピドは、北部でイスラエルは敗北しているといっているが、イスラエルの反撃は、ヒズボラを抑えることはできないし、ヒズボラは、イスラエル国内を攻撃できる能力を示している。

ガザの戦闘の終結のめども立たない状態で、北部を強化することはできない。イスラエルも米国の支援がなければ戦争を継続することはできない。もし、米国が本気で停戦を求めるなら、軍事支援をとめることが一番である。

イスラエルにも、米国にもガザで停戦を実現する意思がない以上、ハマスとその他の抵抗運動は闘争を継続していくしかない。西岸においても武装抵抗が拡大し、占領軍が激しい攻撃を加えている。力で抑えられるとイスラエルは考えているが、これまでも抑えられたことはないし、パレスチナの人々の抵抗はさらに強まるだろう。







2024年8月16日 記事、特集  
パレスチナクロニクル編集部

しかし、ガザのすべての抵抗グループを代表するパレスチナ運動ハマスがドーハで行われた交渉に参加しなかったことを考えると、この前例のない楽観主義は不可解に思える。

金曜日の記者会見で、ジョー・バイデン米大統領はガザ停戦交渉について、合意は手の届くところにあると述べた。

「私は何も不吉なことは言いたくない…何かあるかもしれない。3日前よりもずっと近づいている。だから、折ってしよう」と彼は言った。

彼の発言は、カタールとエジプトの2つのアラブ仲介者と提携している報道機関を含む楽観的なメディア報道と一致していた。

ワシントン、ドーハ、カイロは共同声明で、「人質と拘束者を解放し、停戦を開始し、この合意を実施する時が来た」とし、「その結果への道は今や整った」と述べた。

しかし、ガザのすべての抵抗グループを代表するパレスチナ運動ハマスが木曜日と金曜日にドーハで行われた会談に参加しなかったことを考えると、この前例のない楽観主義は不可解に思える。

米国はハマスが会談に間接的に参加したという印象を与えたが、同運動の情報筋は、会談には直接的であろうとなかろうと、何の役割も果たしていないと述べた。

それとは逆に、ハマスの情報筋は金曜日にアルジャジーラに対し、「ハマス運動は7月2日の提案にコミットしている」と語った。

「間接的な経路で我々に届いたものは提示された上限に達しておらず、ハマスはそれを受け入れることはないだろう」と彼は付け加えた。

では、一体何が起きているのか？

パレスチナの著名なアナリスト、サイード・ジアド氏は、アルジャジーラとのインタビューでハマスの立場を要約した。

「ハマスはこれらの交渉に直接的または間接的に参加しておらず、数日前に『会談』のボイコットを発表していた」とジアド氏は述べ、次のように付け加えた。

「ハマスは『新しい提案』の交渉ではなく、『以前の提案』の実行に向かうことを望んでいた」

「実際、我々は交渉で後退しており、前進していない。過去2日間の交渉にとって最も実りあるものだったというアメリカの主張はまったくの嘘だ。我々は交渉の完全な崩壊に直面している」

ジアド氏は、交渉は細部の議論ではなく、重要な問題に関する完全な意見の不一致に直面していると述べた。「イスラエルは、調停者が提案し合意したすべてのことを完全に撤回している」とジアド氏は述べ、「カタールとエジプトは昨日と今日、イスラエルに10以上の異なる提案をしたが、イスラエルはそれをすべて拒否した」という情報を明かした。

では、争点は何なのか？

ジアド氏や他の専門家によると、イスラエルは依然として、ガザとエジプトを隔てるフィラデルフィア・ルート（ガザ中央部のネツァリム地域、ガザ国境検問所、南から北へのパレスチナ避難民の帰還、合意の各段階から次の段階への移動メカニズムをめぐって、完全な支配権を主張している。

実際、イスラエルは恒久停戦の原則を拒否し続けている。

では、なぜアメリカは交渉の進展について誤った印象を与えることに熱心なのか？

考えられる答えは2つある。1つは、たとえその立場がこの地域におけるアメリカの政策や利益と矛盾するとしても、イスラエルの立場をアメリカが典型的に保護し支持することだ。2つ目は、戦争が始まって以来イスラエルのベンヤミン・ネタニヤフ首相が煽ってきた地域紛争を回避したいというワシントンの必死の望みだ。

しかし、米国はイスラエルに圧力をかける代わりに、

## オリープの会通信 第45号(通巻51号)

合意は手の届くところにあり、停戦案の最大の障害はイスラエルではなくハマスだという考えを広め続けている。

しかし、そうすることで、ワシントンはイスラエルにガザでの大量虐殺戦争を続けるために必要な時間と資源を与え続け、ガザ地域を不安定にし、差し迫った地域戦争への懸念を高めている。

### では、なぜアラブの仲介者は交渉が進展したという幻想を助長しているのだろうか？

ドーハとカイロから発せられる楽観的な言葉には2つの理由がある。1つは、3カ国による度重なる共同声明で示されたワシントンによる圧力、もう1つは、差し迫ったイランの報復が地域における自国の利益を損なうのではないかという懸念だ。

ハマスは協議に参加しなかったが、同運動の公式見解は、7月2日の提案に引き続きコミットしているというもの。

同運動は、すでにすべての当事者が提案し合意した内容について再交渉する意思はないことを明確にしている。

### 進行中の大量虐殺

国連安全保障理事会の決議を無視イスラエルは即時停戦を要求したが、ガザに対する残忍な攻撃が続く中、国際社会から非難を浴びている。

現在、国際司法裁判所でパレスチナ人に対する大量虐殺

の罪で裁判を受けているイスラエルは、10月7日からガザに対して壊滅的な戦争を続けている。

ガザ保健省によると、10月7日から始まったイスラエルによるガザでの大量虐殺で、4万5人のパレスチナ人が殺害され、9万2,401人が負傷した。

さらに、少なくとも1万1,000人が行方不明で、ガザ地区全域の自宅の瓦礫の下で死亡したとみられる。

イスラエルは、10月7日のアルアクサ洪水作戦で1,200人の兵士と民間人が死亡したと発表している。イスラエルのメディアは、その日多くのイスラエル人が「友軍の誤射」で死亡したと示唆する報道を発表した。

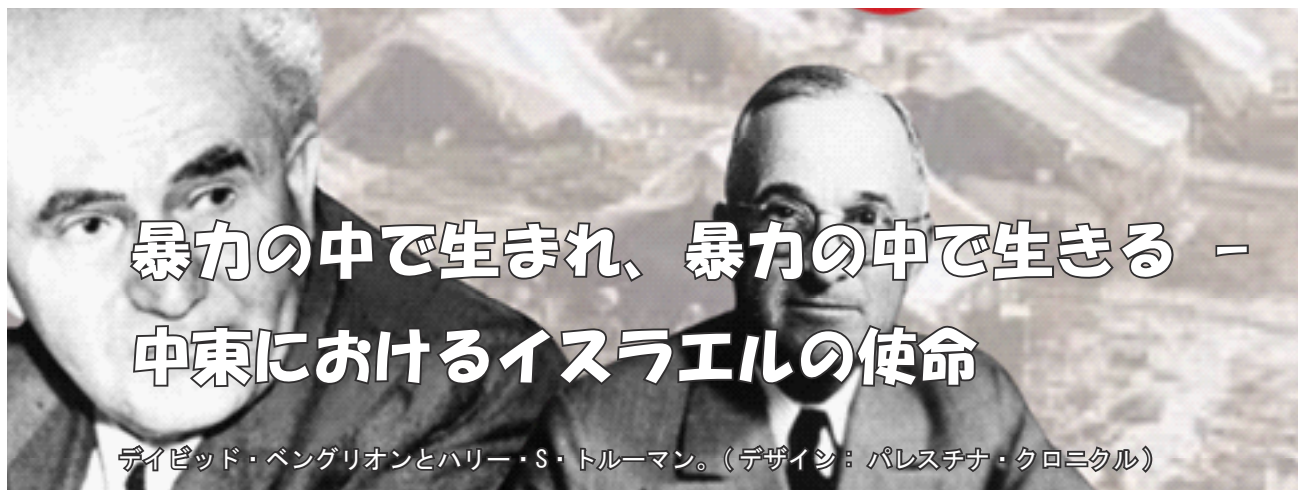
パレスチナおよび国際機関は、死傷者の大半は女性と子供であると述べている。

イスラエルの戦争は、主にガザ北部で深刻な飢餓を引き起こし、多くのパレスチナ人、主に子供が死亡した。

イスラエルの侵略はまた、ガザ地区全域から200万人近くの人々の強制的な避難を招き、避難民の大半はエジプトとの国境に近い人口密集の南部都市ラファに強制的に避難させられた。これは、1948年のナクバ以来、パレスチナで最大の大量脱出となった。

戦争後期には、何十万人ものパレスチナ人が安全を求めて南部から中央ガザへと移動し始めた。

(パレスチナクロニクル)



2024年8月10日 記事、論評

M・レザ・ベナム博士著

イスラエルのシオニスト創設者たちは平和にやって来たのではない。彼らは力と脅迫に基づいた国を作り上げてきた。10年ごとに、彼らの子孫は暴力を激化させてきた。

暴力の中で生まれ、暴力の精神で生きている国の将来は不確実である。

中東は、1948年5月14日以来、多くの悲劇と悲しみを経験してきました。その日、イスラエルはパレスチナに国家を樹立すると宣言し、数分以内に、米国大統領ハリー S. トルーマンは、イスラム世界の中心にある新しいユダヤ人国家の事実上の権威として、イスラエルの暫定政府を承認しました。

米国とイスラエルの覇権的目標は、第二次世界大戦の終結以来、一致しています。両国とも、イスラム教徒とその政府の支配を帝国と地域の利益の中心と見なしてき

ました。

しかし、彼らが思い描いた世界秩序は、パレスチナ原住民の国家的利益や、ヨーロッパのシオニストによる土地の没収と占領に抵抗する決意とは一致しませんでした。

平和的共存は、構想されたエレッツ イスラエル植民地計画には存在しませんでした。そして、アメリカが戦後の帝国主義国家として台頭して以来、この地域における平和はアメリカの遺産ではありません。

イスラエルの指導者たちは平和への願望を公言しているが、建設的な協議や取り組みを絶えず妨害し、代わりに拡張主義的な戦争を開始し、他国の土地を不法に占領し、この地域の軍事化に貢献してきた。

70年間、米国が後援する和平計画、協定、交渉は、イスラエルが入植者植民地化プロジェクトを実行する際の隠れ蓑となってきた。今日でも、有力な医学雑誌（2024年7月）がガザでの死者数が18万6000人を超える可能性がある」と報じているように、ワシントンはイスラエルのガザでの殺戮地帯に対する「鉄壁の」支援を主張し続けている。米国の財政的、外交的、軍事的支援は、イスラエルが今日のような残忍な悪者になることを奨励してきた。

10月のガザ刑務所脱獄後、イスラエルは常に頼ってきた武器である暴力を使って、シオニストの抑圧からの解放を求めるパレスチナ人の願いを打ち砕いてきた。イスラエルは、4,000年の歴史を持ち、かつてはさまざまな王朝や帝国に支配されてきた一帯の土地と民族に対して、大量虐殺的な暴力をふるった。

パレスチナの指導者たちも、イスラエルの暴力から逃れられなかった。テルアビブは抵抗勢力の指導者を暗殺してきた歴史がある。最新の犠牲者は、7月末にテヘランで暗殺されたハマス政治局長のイスマイル・ハニヤである。

その5か月前には、ハマスの軍事部門の副司令官マルワン・イッサがガザで暗殺された。彼らより前には、ハマスの共同創設者であるアブドゥル・アジズ・アル・ランティシとシェイク・アハメド・ヤシン（生涯の大半を車椅子で過ごした）が2004年にガザで殺害されている。

イスラエルの暴力はパレスチナに限ったことではない。2023年10月以降、イスラエル軍はレバノン、シリア、イランで少なくとも9人の指導者と軍司令官を殺害した。

2024年7月30日、イスラエルはベイルート南部の住宅地を攻撃し、ヒズボラの上級司令官フアード・シュクルを殺害した。また同日、米国はイラク人民動員軍が運営するバグダッド南部の基地を攻撃し、4人が死亡、多数が負傷した。

パレスチナを長年支援してきたイエメン人民民主共和国も米国の怒りを感じている。2023年11月初旬、イスラエルによるガザへの砲撃と包囲に対抗して、アンサラッラー（フーシ派）は紅海の船舶を妨害する協調作戦を開始した。それ以来、米国はイエメンのアンサラッラー支配地域全体に空爆を開始している。

サウジアラビアのアルアラビーヤによると、イエメンの経済生命線である紅海の港ホデイダの燃料貯蔵所と石油精製所への空爆（7月20日）は、イスラエル、米国、英国の共同作戦で行われた。国の重要な港への攻撃で大規模な火災が発生し、イエメン人6人が死亡、87人が負傷した。

ワシントンがイスラエルの大量虐殺に加担していたことを考えると、別の世界大国の介入が必要なのは明らかだった。パレスチナ人は、和解交渉の仲介役となる中華人民共和国の招待を歓迎した。北京での3日間の後、14のパレスチナグループが2024年7月23日に統一協定に署名した。

戦後のガザとヨルダン川西岸を管理する暫定国家和解統一政府の設立を求めるこの協定は、バイデン政権によって拒否された。その代わりに、彼らは、パレスチナ人の大多数が拒否しているパレスチナ自治政府とガザ統治の合意を望むことを繰り返した。ガザにおける役割の拡大。

また、予想通り、ホワイトハウスは、パレスチナ・イスラエルの平和、正義、安全のための包括的計画を示した2024年7月19日の国際司法裁判所の画期的な判決を無視した。

歴史が明らかにしているように、イスラエルは暴力によって中東での居住を維持してきた。さらに、米国とイスラエルの支配は、その支配を維持するために紛争と地域分裂に依存してきた。

ワシントンは、この地域への関与を深めるにつれて、統一の試みを米国とイスラエルの利益と覇権に対する脅威と見なした。これは、今日の政治的イスラムに対する認識と似ている。

アメリカの事態をコントロールする決意は、1957年のアイゼンハワー・ドクトリンで表明され、この地域での米軍の役割拡大を求めた。この教義は、汎アラブ民族主義の拡大する影響力に対する敵意と抑制の願望、そして当時のソ連の存在に対する恐怖を反映していた。

1957年までに、アラブの文化的、政治的、社会経済的統一を主張するイデオロギーである汎アラブ主義は、アラブ世界で支配的なイデオロギーとなり、エジプトのガマル・アブドゥル・ナーセル大統領（1956-1970）がその紛れもない指導者となった。



ナーセルの指導の下、エジプトとシリアは1958年に連合アラブ共和国を形成し、1961年まで存続した。アラブ民族主義運動の焦点は、統一、パレスチナの喪失に対する復讐、植民地主義と西洋帝国主義への反対にあった。

すでに弱体化していたアラブ民族主義は、1967年のイスラエルの先制戦争によるエジプトとシリアの屈辱的な敗北によってさらに弱体化し、最終的にナーセルの衰退と運動の衰退につながった。戦争中、米国がイスラエルに武器を供給していたことは特筆すべき点だ。

アラブの団結は回復していない。エジプトやヨルダンなどの国は米国の保護国となり、石油資源に恵まれたアラブの独裁者はワシントンとテルアビブの地域顧客となった。そして米国は、いかなる犠牲を払ってでもイスラエルを守るという観点のみでこの地域を見るようになった。

米国とイスラエルの支配と戦うパレスチナ人の決意は、かつてアラブ世界の多くの層に訴えかけ、刺激を与えた、期待された民族主義を体現している。

米国の政治階級は中東の5億人のイスラム教徒の願望に

無関心で、その代わりにその資源、名声、支援を、約750万人の非イスラム教徒のイスラエル人が住む1つの国家に捧げてきた。

イスラエルのシオニスト建国者たちは平和を願ってやって来たのではない。彼らは力と脅迫に基づいて国を作った。10年ごとに彼らの子孫は暴力を激化させてきた。勇気づけられた彼らは、パレスチナの民族浄化という長年の使命をもちや隠そうとしない。そしてアメリカにとっての悲劇は、その使命のパートナーになることを選んだことだ。

米国とイスラエルはパレスチナ人に未来をもたらさないように懸命に努力してきたが、彼らの力と、彼らをパレスチナにしっかりと根付かせてきた4,000年の歴史を常に過小評価してきた。

- M. レザ・ベナム博士は中東の歴史、政治、政府を専門とする政治学者である。彼はこの記事のパレスチナ・クロニクルに寄稿した。



## イスマイル・ハニヤ暗殺は抵抗の決意を強める

2018年5月、イスラエルとのガザ国境沿いで行われた大帰還デモの最中のハマス指導者イスマイル・ハニヤ。マフムード・ハッターブ APA 画像

アリ・アブニマ パワースーツ

2024年7月31日

水曜日早朝、テヘランで起きたハマス指導者イスマイル・ハニヤ暗殺は、この地域を全面戦争に近づける大きなエスカレーションであり、イスラエルは望んでいないと主張しているが、挑発するために全力を尽くしているようだ。

これは、イスラエルが火曜日の夕方にレバノン爆撃し、民間人3人を殺害した数時間後に起きた。イスラエルは、ヒズボラの最高幹部で指導者ハサン・ナスララの側近であるファード・シュクルを標的にしたと主張した。ヒズボラは水曜遅くにシュクル司令官の殉教を確認し、ナスララ師は「シュクル司令官の葬儀で明日、この犯罪に関

する我々の政治的立場を発表する」と述べた。

イスラエルは、通常の慣行に従い、イラン首都で起きたイスマイル・ハニヤと彼のボディガードであるワシム・アブ・シャアバンの暗殺について公式コメントをしていない。同ハマスの指導者は、火曜日のマスード・ベゼシュキアン大統領就任式に出席していた。

イスラエルのベンヤミン・ネタニヤフ首相は水曜の短い演説で、国民に対し「困難な日々が待ち受けている」と警告し、「[我々は]あらゆる脅威に対して団結し、断固として立ち向かう」と述べた。

同首相はハニヤ暗殺についてはコメントせず、ハマスとの合意によってガザ戦争を終わらせないという立場を改めて強調した。ネタニヤフ首相は、国際的および国内的な圧力について、「私は当時もそうした声に屈しなかつ

たし、今も屈しない」と述べた。

しかし、少なくともイスラエルの政府高官の一人、アミハイ・エリヤフ文化遺産相は、この殺害を称賛した。彼はX(旧ツイッター)に「これがこの汚物を世界から一掃する正しい方法だ」と投稿した。

「架空の『平和』/降伏協定はもうやめて、死の息子たちに慈悲を与えるのはもうやめよう」とエリヤフ氏は付け加えた。

イスラエルが公式に沈黙しているにもかかわらず、その責任を疑う者はほとんどいない。特にイランでは、自国領土でのハニヤ氏の殺害は、主権と安全保障に対する重大な侵害と見なされるだろう。

「犯罪的でテロリスト的なシオニスト政権は、我が国の領土で我が国の親愛なる客人を殉教させ、我々に悲しみをもたらしたが、厳しい処罰の土壌も整えた」とイランの最高指導者アヤトラ・アリ・ハメネイ氏は述べた。

イランのイスラム革命防衛隊は、ハニヤ氏とボディガードが滞在先の住宅で殺害されたと述べた。同部隊は、攻撃は捜査中であり、詳細は後日発表されると付け加えた。

ハマスの幹部ハリル・アル・ハイヤ氏は、ハニヤ氏は滞在先の部屋の窓、ドア、壁を破壊したミサイル攻撃で「直接」殺害されたと述べた。アル・ハイヤ氏は、イスラエルはガザで「目標を達成できなかったため、地域全体を焼き尽くす」ことを目指しており、合意を拒否し、「失敗を重ねても侵略を続ける」つもりだと付け加えた。

### ハニヤ氏の家族が虐殺される

ハニヤ氏が公の場で最後に語った言葉の中には、殺害される前日にハメネイ師に語った言葉がある。ハニヤ氏は、イスラエルの大量虐殺でガザで3人の息子、1人の妹、多くの孫を含む60人以上の家族を失ったことをイランの指導者に語った。

4月にイスラエルがハニヤ氏の家族数人を殺害した後、ハニヤ氏は「私の子供や孫の血は、パレスチナの人々の子供たちの血よりも尊いものではない」と述べた。

「3人の息子と孫の何人かの殉教によって神が私に授けてくださったこの栄誉に感謝します」とハニヤ氏は付け加えた。

イスマイル・ハニヤ氏の殺害の知らせの後、長男のアブド・アル・サラム氏は「私たちは殉教の知らせを受け取ることに慣れており、他のすべての国民と同様に、勝利や殉教に慣れていきます」と述べた。

彼はさらに、抵抗運動の指導者を殺害することでパレスチナの解放闘争が止まるとイスラエルが考えているのであれば「妄想に陥っている」と付け加えた。

イスマイル・ハニヤ氏は1962年、ガザのビーチ難民キャンプで、パレスチナの都市マジダル・アスカランの出身の家庭に生まれた。同市は1948年にシオニストに征服された後、アシュケロンと改名された。

1980年代初頭、彼はガザのイスラム大学で文学を学び、イスラム学生団体に参加した。

彼は第一次インティファダ(占領下のガザ地区とヨルダン川西岸地区で1987年に始まった大規模な蜂起)のときに活動した。この年はハマスが設立された年でもある。ハニヤ氏は同グループの初期メンバーの1人で、創設者のシェイク・アハメド・ヤシンの側近となった。ヤシンは2004年にイスラエルに暗殺された。

占領に反対する活動家として、ハニヤ氏はイスラエルによって繰り返し投獄され、最も長い投獄期間は3年間だった。その後、1992年に彼はイスラエルからレバノンに追放された数百人のパレスチナ指導者や活動家の一人となった。

1992年にパレスチナ解放機構とイスラエルの間でオスロ合意が調印された後、彼はガザに戻った。1997年、彼はシェイク・ヤシンの補佐官となった。

ヤシンは、ヨルダンのアンマンでイスラエルがハマスの幹部ハレド・メシャールを暗殺しようとしたが失敗に終わり、イスラエルによって釈放されたばかりだった。イスラエルのエージェントがメシャールの耳に毒物を吹きかけたのである。ヨルダンのフセイン国王はイスラエルに解毒剤の提供とヤシンの釈放を要求し、イスラエルはそれに応じた。

### ハニヤの指導者への昇格

ガザに戻ったハニヤ氏は、ビーチ難民キャンプで生まれ育った質素な家庭にも戻った。ハニヤ氏はガザ全域のモスクで金曜礼拝中に定期的に説教を行ったこともあり、ガザ全域でよく知られた人気の指導者となった。

2006年、占領下のヨルダン川西岸とガザ地区におけるパレスチナ自治政府の議会選挙でハマスが勝利した後、ハニヤ氏は短命に終わった統一政府の首相となった。この政府は、それまでパレスチナ自治政府を完全に支配していた主要なライバルであるファタハと提携した民兵を使ってハマスを打倒するという、米国の支援を受けた陰謀によって終焉を迎えた。

米国が支援したクーデターはヨルダン川西岸では成功したが、ガザでは失敗した。イスラエルが米国、欧州連合、カナダ、一部のアラブ諸国、そしてラマラでマフムード・アッバス氏が率いるパレスチナ自治政府の支援と共謀を得てガザに壊滅的な包囲を敷いた間、ハニヤ氏はガザの首相に留まった。

## オリブの会通信 第45号(通巻51号)

ハニヤ氏はパレスチナの各派閥の調停者として知られ、2014年に国家統一を達成するための新たな試みとしてガザの首相を退任した。これは、パレスチナ解放機構代表団との協定調印に続くもので、この協定はハニヤ氏の自宅があるアルシャティキャンプ（ビーチキャンプはアラビア語でこう呼ばれる）で調印されたため、シャティ協定と呼ばれている。

しかし、団結の妨げとなる障害、主にパレスチナ自治政府がイスラエルとの協力関係を維持することに固執し、ラマラ政府の外国スポンサーが反対したことで、分裂を克服しようとするあらゆる試みが台無しになった。

2017年5月、ハニヤ氏はハレド・メシャル氏の後任としてハマス政治局長に選出された。これはハマスがムスリム同胞団からの独立を明言した新しい政治憲章を発表した時期と重なる。

この文書は、ハマスがヨルダン川西岸とガザ地区にパレスチナ国家を受け入れる用意があることを示している。

新しい憲章には、「紛争はシオニスト計画とのものであり、ユダヤ人の宗教とのものではない」と記されている。ハマスは、ユダヤ人がユダヤ人だから彼らと闘争しているのではなく、パレスチナを占領しているシオニストと闘争している。しかし、ユダヤ教とユダヤ人を自分たちの植民地計画や違法な組織と常に同一視しているのはシオニストだ」

### 抵抗は「正当な権利」

改訂された憲章では、武装抵抗を含む抵抗は「国際法で保証された正当な権利」であるとも述べられている。しかし、武装抵抗は目的を達成するための手段であり、その目的、つまりパレスチナ人の解放と自決が政治的手段で達成できるのであれば、ハマスはそれを受け入れる用意があることも示唆している。

ハマスは、これらの広範囲にわたる譲歩と政治的な提案によって、アイルランド共和主義運動シン・フェイン党とその関連武装組織IRAと同様に、国際政治の舞台に参入できると期待していた。

ハマスはまた、2018年に始まったガザでの大規模抗議活動「帰還の大行進」を支援した。これは、国際社会の支持を得てイスラエルに圧力をかけ、ガザ封鎖を終わらせようとする取り組みだった。イスラエルは軍の狙撃兵を派遣し、何千人もの非武装の民間人を殺害し、負傷させた。

イスラエルと米国から政治的な提案を断固拒否されたハマスは、武装抵抗を継続し、エスカレートさせる以外に選択肢はなく、2023年10月7日のアルアクサ洪水作戦

で頂点に達した。

ハマスの最高指導者に就任したハニヤは、ガザからドーハに移住した。カタールの首都から、国際外交と交渉を行うことができた。これには、これまで成功していないガザでのイスラエルの大量虐殺戦争の終結と被拘禁者の相互交換の取り組みにおける中心的な役割も含まれる。

ハニヤの暗殺後、イスラエルはガザの捕虜解放の合意を依然として求めていると再確認したが、これはイスラエルがパレスチナの首席交渉官を殺害した後のひねくれた皮肉な発言である。

ハニヤはパレスチナ人から主要で人気のある国家指導者とみなされ、モスクワ、北京、アンカラなど世界の主要首都との交渉官を務め、国際的に広く認知されていた。イスラエルによる大量虐殺から6か月後の3月にヨルダン川西岸とガザ地区で行われた世論調査では、パレスチナ自治政府指導者マフムード・アッバスとの潜在的な対決でハニヤが70パーセントの票を獲得したことが示された。

1月にベイルートでハニヤの副官で主要交渉官のサレハ・アルーリが暗殺された後（これもイスラエルの犯行と広く考えられている）、今は亡きハマスの指導者は次のように述べた。

「運動家国民と国家の尊厳のために指導者や創設者を殉教者として捧げる組織は決して敗北せず、このような暗殺は組織をより強く、より強靱に、より断固たるものにするだけだ」

モーリーン・クレア・マーフィーが調査に協力した。







世界的な親パレスチナ運動は、パレスチナ人の正義と自由の要求に応えない短期的な目標に陥ってはならない。

サマー・ジャベルは政治活動家であり研究者である。

2024年8月18日

イスラエルとパレスチナのイスラム組織ハマスとの紛争が続く中、コロンビア大学の学生らは、大学当局から解散命令、さもなければ停学処分を受けるとの命令が出ているにもかかわらず、パレスチナ人を支援する抗議活動を続けているため、ハミルトンホール内にバリケードを築いて外から物資を運び出している。2024年4月30日、米国ニューヨーク市。ロイター/ケイトリン・オックス

コロンビア大学の学生らは、2024年4月30日、米国ニューヨーク市で、学生らは戦争に抗議していたところガザでイスラエル軍に殺害された6歳のパレスチナ人少女、イスラエル軍に殺害されたヒンド・ラジャブを偲んでハミルトンホールを「ヒズ・ホール」と改名した。。  
[ケイトリン・オックス / ロイター]

イスラエルがガザに対して大量虐殺戦争を繰り広げてから10か月以上が経過した。この間ずっと、パレスチナの人々との連帯を訴える運動は盛衰を繰り返してきたが、止まることはなかった。イスラエルの戦争犯罪と人道に対する罪に対する世界の指導者たちの無策に抗議するため、世界中で大勢の人々が結集した。

大量虐殺戦争の1年が近づくとつれ、パレスチナ連帯運動の今後の方向性について重要な疑問が浮上している。さまざまな親パレスチナ活動家との会話の中で、1つのテーマが浮かび上がった。それは、運動の目標を戦争の停止からパレスチナの脱植民地化へと早急に転換する必要があるということだ。停戦ではパレスチナ人が直面している大量虐殺の暴力を終わらせることはできないからだ。

反戦デモの限界

イスラエルがガザへの侵攻を開始してすぐに、戦争反対の運動が始まった。最も頻りに掲げられたスローガンの1つは「今すぐ停戦！」であり、幅広い反戦運動が結集した。

国際連帯運動の共同創設者フワイダ・アラフ氏は、当時の緊急性を考えると、停戦目標はさまざまなグループを結集させる最低限の目標だったと語った。彼女は、これは親パレスチナ運動がこの目的に限定されるべきという意味ではないと指摘した。

しかし、停戦要求は過去10か月間、講義デモの主な呼びかけであり続け、抗議運動の範囲を著しく制限している。停戦が発表されれば抗議運動は止まると示唆しているようだ。しかし、イスラエルの占領とアパルトヘイト下でのパレスチナ人の苦しみは、イスラエルがガザへの無差別爆撃をやめても終わらないことは、私たち全員が知っている。

反戦デモのもう1つの問題は、特定の議題を支持する結果になることが多いことだ。私が話を聞いた活動家の中には、そのようなイベントはパレスチナ自治政府(PA)の代表者を受け入れ、その視点を反映していることが多いと指摘した人もいた。パレスチナ自治政府は、交渉による和平合意とイスラエルとの協力を望んでいるが、それではパレスチナ人の正義や祖国への帰還権などの要求は解決されない。

こうしたデモのもうひとつの問題は、親パレスチナ運動の規模と強さを示す一方で、参加者の大半を単なる傍観者にしてしまうことだ。人々が行進し、演説を聞き、熱意を表明する一方で、主催者は運動のメッセージと方向性を独占する傾向がある。

姓を伏せてほしいと頼んだ英国の政治評論家アリ氏は、このアプローチの意味を強調し、「主催者と密接な関係のある個人には反戦デモ中に候補者として自己紹介する場が与えられることがあるが、戦争終結に同様に尽力している他の人々には同じ機会が与えられていないことに気づくだろう。このような慣行は不公平な競争環境を作

り出し、真に献身的な個人に不利に働き、運動の包括性と有効性を損なう」と述べた。

抗議は国民の反対意見を表明する上で重要な役割を果たしているが、国際問題や対外政治問題に影響を及ぼす効果は限られている。場合によっては、抗議は圧力弁として機能し、政策に影響を与えることなく国民の不満を解消する。

### 停戦の呼びかけを超えて

親パレスチナ抗議運動は停戦に焦点を当てるのではなく、脱植民地化の要求を受け入れるべきである。パレスチナ問題を反植民地主義の枠組みに戻し、脱植民地化闘争の歴史におけるその位置を再確認する必要がある。これには、平和の幻想を解体することが含まれる。

この数十年にわたるプロセスは、実際の平和をもたらしてパレスチナ人の権利を保護することに失敗しただけでなく、これは植民地化者と被植民地化者との紛争ではなく、対等な立場の紛争であるという誤った印象を与えました。パレスチナ人が暮らす占領とアパルトヘイトの現実から目をそらします。

また、脱植民地化の議論を、国連憲章と国際法で保証されている自己決定権と解放権に結び付けることも重要です。このアプローチは、これはイスラム過激派と文明化されたイスラエルの間の闘争であり、パレスチナ人の支持者は反ユダヤ主義者であるというイスラエルのプロパガンダに対抗するために不可欠です。

最近、このプロパガンダは、親パレスチナ派の抗議活動をユダヤ人コミュニティにとって危険であると描写し、人種差別や反移民の暴動と混同して、抗議活動を停止するよう求める声につながるために使われてきました。だからこそ、脱植民地化を求める声は正当であり、国際法の下で法的正当性があることを指摘することが重要です。

脱植民地化の枠組みは、パレスチナ問題をより広範な正義の問題に高めるのにも役立ちます。それは、人々が自分たちの経済的困難や政治的疎外と、植民地支配下のパレスチナ人の苦しみとのつながりを認識するのに役立ちます。

これにより、パレスチナ人の正義と平和を求める闘いは、コミュニティに可視性と力を与えるプラットフォームになります。この力学は、英国とフランスの移民の子孫のコミュニティ、および米国の黒人およびヒスパニックのコミュニティで特に顕著です。

ユダヤ人コミュニティの参加は、親パレスチナ運動を単に戦争を止めることからより広範な脱植民地化の取り

組みへと変える上で、重要な役割を果たすこともできます。この変革は、反植民地主義運動が反ユダヤ主義ではないことを証明し、ユダヤ人にイスラエルに「我々の名において犯罪を犯すことはできない」と訴える声を与える以上のものである。

脱植民地化運動は、ユダヤ人コミュニティが平等な市民権に基づく一つの民主国家でユダヤ人とパレスチナ人が共存することを主張するプラットフォームを提供する。この立場は、シオニスト事業の植民地主義イデオロギーを解体し、より公正な解決への道を開くことに貢献するだろう。

### 効果的な抗議運動

イスラエルの歴史家で活動家のイラン・パペは最近、イスラエルの過激主義はシオニズムの最終章が展開しているという現実を反映していると主張した。私は彼の見解に賛成だが、楽観主義はイスラエルの内部矛盾だけにに基づくべきではないと思う。

我々はパレスチナを脱植民地化するための効果的な戦略を開発することに焦点を当てるべきである。真の解放はイスラエルの内部崩壊からではなく、パレスチナの脱植民地化闘争の成功からもたらされるだろう。では、それはどのようなものになるのでしょうか？

学生運動は良い例です。草の根運動として、メンバーが意思決定プロセスに民主的に参加する権限を与え、ゲートキーパーが現れて物語や行動をコントロールする可能性を排除します。

同時に、どの国でも学生人口が多いことを考えると、学生の抗議活動は相当数の人々を動員することができ、教育機関や地方自治体に対して大きな影響力を持つことができます。

今年初めの米国での学生抗議は、そのような活動がいかに効果的であるかを明らかにしました。彼らは停戦とイスラエルへの軍事援助の停止を求めただけではありません。その代わりに、彼らは反植民地主義の枠組みの中で、イスラエルの植民地化を支援する企業からの大学の撤退とイスラエルの機関との協力の断絶という、地域的かつ具体的な要求をしました。

学生は自分の教授や地域社会を行動に駆り立てることができました。かなりの数の学者が反植民地主義の立場を表明し、学生運動に参加せざるを得ないと感じました。同時に、特に都市部での多くの学生抗議活動は、効果的なアウトリーチ活動のおかげでコミュニティの支援を受けた。



キャンパスでのデモが効果的だったのは、次世代のテクノクラート、企業リーダー、政治意思決定者を輩出するエリート機関をターゲットにしていたためだ。これは、イスラエルへの支持を確保するためにリーダーに影響を与えることに焦点を当てたイスラエル政府の「指揮高地」戦略に直接挑戦した。

学生抗議活動の広がりとその大衆へのアピールは、学生運動を体制側の抑制能力を超えて押し進めた。今や、学生運動は大衆文化やライフスタイルに影響を与える力を持つ大衆運動に変身する可能性を秘めている。

### 動員と草の根活動

学生運動は他の動員の道筋を示す。注目すべき点の1つは労働運動である。

西ヨーロッパ各地の多くの労働組合がパレスチナとの連帯を表明し停戦を呼びかけているが、この立場は、イスラエルへの武器供給を中止し、イスラエルへの支援を撤回するよう政府に圧力をかける具体的な行動にはつながっていない。

私が話をした英国の活動家、スチュワート氏は姓を明かすことを望まなかったが、労働組合は戦争を終わらせ、パレスチナの脱植民地化を開始する上で重要な役割を果たすことができると強調した。彼らの強みは、労働者がイスラエルに武器を供給する船や飛行機への積み込みを拒否するなど、ボイコット運動を組織することにある。これは、学生運動がもたらした「破壊的」影響にある程度匹敵することができる。

学生の動員から学べる他の運動には、地方選挙や国政選挙での条件付き投票を通じて政府や政党に政治的圧力をかけるさまざまな運動が含まれる。

米国では、「無関心」および「バイデンを見捨てよ」運動が、11月の選挙で特定のコミュニティからの票と引き換えに、イスラエルに対する民主党の姿勢を変えるよう圧力をかけている。このアプローチの問題は、投票しないと第2次トランプ政権が誕生する可能性があり、パレスチナの大義にとって非常に不利になる可能性があることだ。

この状況を乗り切るために、米国の親パレスチナ運動は、選挙前と選挙後の両方で、具体的に達成可能な目標を主張することに焦点を当てるべきである。これは、民主党の新大統領候補であるカマラ・ハリスが抗議者の要求に応えているように見えるため、特に重要である。

さらに、パレスチナを支持しているという理由だけで、どの選挙でも特定の候補者を推すのは近視眼的である。

人々は通常、投票する際には外交政策よりも日常的な懸念を優先する。これは、有権者が主に国内の社会経済問題に焦点を当てていた最近の英国選挙で明らかになった。

だからこそ、学生運動と同様に、これらの運動が、パレスチナ人の窮状と労働者階級、移民などさまざまなコミュニティの抑圧とのつながりを明確にすることで、幅広い支援ネットワークを構築することが重要なのです。パレスチナ人の闘争への支援は、貧困、人種差別、不十分な社会保障、グリーン移行の緊急の必要性などに取り組む他の進歩的な政策と結び付けられるべきです。

### パレスチナ人の役割

これらすべてにおいて、パレスチナ内および海外在住の社会運動、労働組合、大衆委員会、公人を含むパレスチナ市民社会が重要な役割を果たすことができます。

パレスチナの反植民地主義の物語と、世界の市民社会の取り組みとの戦略的同盟は、第二次インティファダで勢いを増したボイコット、投資撤退、制裁 (BDS) 運動のように、パレスチナの市民社会自身によって推進されるべきだと、壁と入植地に反対する人民委員会の共同創設者でリーダーのサラ・アル・カワジャ氏は私に語った。

この物語と同盟は、脱植民地化の枠組みの中で世界の連帯運動を主導するために不可欠である。さまざまなパレスチナの市民社会の主体を団結させる取り組みはすでに始まっている。この記事の著者は、国際レベルでの取り組みを共同で主導している。

この同盟案は、2つの重要な目的を達成することを目指している。第一に、パレスチナの闘争は、あらゆる形態の植民地主義、人種差別、戦争挑発、差別に反対する世界の自由と正義を求めるより広範な戦いの一部であるという理解を強めることを目指している。第二に、パレスチナ市民社会が主導権を握って運動を政治的に形づくることを目指している。

統一されたパレスチナ市民社会は、脱植民地化の物語をより効果的に推進し、イスラエル人とパレスチナ人が平等な市民権を持つ一つの民主国家を樹立するというイスラエルとの紛争の解決案を強調することができる。この指導的役割を担うことで、パレスチナ市民社会は世界的な親パレスチナ運動を導き、パレスチナ人に、取り込まれたり特定の議題に奉仕したりしない発言力を与えることができる。

ガザでの大量虐殺とそれに対する世界的な動員により、パレスチナの闘争は重要な岐路に立たされている。パレスチナ人とその同盟国がこの瞬間を捉え、植民地構造を解体し、民族や宗教に関係なくすべての市民が平等である単一の民主国家を樹立する解決策を推進することが不可欠である。

# パレスチナ日誌

## 10月27日

- ・900人の米兵が防衛強化のため中東に向かう
- ・イスラエルは2つのスパイ会社を使って、ガザにいる捕虜の居場所を割り出す
- ・アル・カッサム旅団がテルアビブに向けてロケット弾を発射
- ・占領軍がヨルダン川西岸で大規模な逮捕・襲撃作戦を開始
- ・戦争21日目：ガザ地区各地の家屋への爆撃で60人以上の殉教者が死亡した。
- ・占領軍はヘブロンを襲撃し、ガザからの労働者も標的にした逮捕作戦を開始した。
- ・ベツレヘムを襲撃、市民11人を逮捕
- ・ナブルス占領軍襲撃時の負傷者と逮捕者
- ・イスラエルに武器を供給するアメリカのメーカーに反対するニューヨークのデモ行進
- ・占領軍ガザ東部アル・シュジャイヤに限定部隊侵入
- ・占領軍がヨルダン川西岸で大規模な逮捕・襲撃作戦を開始
- ・フェイスブックへの投稿が原因で、占領軍はカルキリヤの商業店舗を取り壊した。
- ・カルキリヤで市民が占領軍の銃弾で死亡
- ・戦争21日目：ガザ地区各地の家屋への爆撃で60人以上の殉教者が死亡した。
- ・ミサイルがタバに着弾、6人が負傷
- ・ペンタゴンアメリカ、シリアでイランの標的に対する攻撃を実施
- ・占領軍はヘブロンを襲撃し、ガザからの労働者も標的にした逮捕作戦を開始した。
- ・ベツレヘムを襲撃、市民11人を逮捕
- ・占領軍によるナブルス襲撃での負傷者と逮捕者
- ・占領軍ガザ東部アル・シュジャイヤに限定部隊侵入
- ・7,326人の殉教者... 戦後21日目に数十人の殉教者、そのほとんどが子供と女性だった
- ・ナブルス西部で入植者と占領軍の襲撃を受け、青年が負傷した。
- ・学生ストライキがスペインの各都市を席卷し、バルセロナではデモや座り込みが行われた。
- ・アル・カッサムがラファ海からの侵入を阻止し、弾薬を押収
- ・米財務省がハマスへの新たな制裁を発表
- ・西岸で女性とジャーナリストを含む70人の市民が逮捕された。
- ・ベツレヘムで対立、占領軍の銃弾で2人負傷
- ・テルアビブでミサイルがビルに落下し3人が負傷
- ・第3金曜日-アル・アクサへの入場を阻止し、エルサレムの路上での礼拝を抑圧する。
- ・レバノンとイスラエルが交戦
- ・ユネスコ、ガザの校舎への攻撃の即時停止を要求
- ・イスラエル年末までホテルに滞在する125,000人のイスラエル人の避難
- ・アル・カッサムがアシュケロンを爆撃
- ・UNRWA：ガザでは62万9000人が避難生活を強いられている

サマー・ジャベールは政治活動家であり研究者です。サマー・B・ジャベールはロンドン大学ロイヤル・ホロウェイ校の政治経済学を専門とする博士研究員です。また、危機に瀕した学者のための評議会(CARA)のフェローでもあります。アラブ世界と中東に焦点を当てています。

- ・占領当局はガザ地区からの通信を遮断した。
- ・ヘブロンでの対立で3人の若者が重症を含む負傷を負った。

## 10月28日

- ・米国の教授1700人がバイデン大統領に停戦を要請
- ・米国はイスラエルに対し、完全な地上侵攻ではなく「外科的」作戦を実施するよう求めた。
- ・総会、即時かつ持続可能な人道的停戦を求めるガザに関する決議を採択
- ・占領軍はラマツラ北部のジャラズーンキャンプで家屋を取り壊し、市民7人を逮捕した。
- ・占領軍は150の地下標的を破壊し、カッサム司令官を暗殺したと主張している。

## 10月29日

- ・イスラエル軍がヒズボラへの軍事攻撃を発表
- ・イスラエル人捕虜の家族が戦争評議会との緊急会談を要求
- ・占領軍はヘブロン西部のイドナで、幼稚園の子どもたちを乗せた車とバスを没収し、家宅捜索を行った。
- ・イスラエルの侵略による殉教者は7,703人に上り、うち3,195人が子どもである。
- ・ガザ・ロケット弾がキリヤト・オノ、ホロン、ラマツ・ガンに落下し、負傷者や被害者が出た。
- ・ガザ地区各地への占領軍の爆撃が再開された。
- ・レバノン... 国境沿いの町を狙ったイスラエルの新たな爆撃
- ・アルアルブ・キャンプで占領軍の銃弾により負傷者2名
- ・ベツレヘムのKhalayel Al-Lawzで入植者が市民宅に発砲
- ・占領軍、ナブルス南部の町アウルタの若者3人を逮捕
- ・占領軍、ナブルス南部の町アウルタの若者3人を逮捕
- ・イスラエル、ガザでのスターリンク使用を許可したスペースX社の提携を解消
- ・ヒズボラがザリットの兵舎を攻撃し、直接死傷者を出す。
- ・占領軍機と大砲によるガザ地区への激しい空襲で殉教者と負傷者
- ・アスカル・キャンプで対立、占領軍の銃弾で負傷
- ・ナブルス、トゥバス、ラマラで3人の殉教者が占領軍に射殺された。
- ・占領軍がアスカルキャンプの殉教者ハッサン・カトナニの家を爆撃
- ・バラタ・キャンプで占拠弾により4人が負傷
- ・戦争23日目：数十人の殉教者と負傷者、侵略の犠牲者は8千人を超える
- ・占領軍、ヨルダン川西岸地区から少なくとも35人の市民を逮捕
- ・占領軍がエルサレムのシュアファト・キャンプを襲撃
- ・アル・カッサム抵抗軍兵士はペイトラヒアの北西で占領軍と対峙した
- ・占領軍、ガザのアルクズ病院を爆撃する意向を確認
- ・ガザの健康ストリップの殉教者数は8,005人に増加
- ・占領軍ブルドーザー、サルフィットで数十ダンのブルドーザー破壊を続ける
- ・イスラエル軍がレバノンから発射されたロケット弾の落下を発表
- ・イスラエル軍がレバノンから発射されたロケット弾の落下を発表
- ・トゥルカルムの北、カフィンの占領の嵐
- ・占領軍機がレバノン南部を数回空襲
- ・ヒズボラ、国境上のイスラエル軍施設2カ所を標的と発表



- ・ナブス東部で占領軍と対立し、2発の銃弾を受ける
- ・ナブス北西部ブルカで建設中の家屋を爆撃する占領軍

**10月30日**

- ・イスラエル軍キリヤット・シュモナにミサイル6発発射
- ・オリフで子供が占領軍の銃弾で負傷
- ・エジプトからガザ地区へ48台の援助トラックが通過
- ・占領軍：開戦以来、ガザで239人の捕虜、311人の兵士が死亡
- ・刑事裁判所検事ガザ住民への支援物資輸送の遅延は犯罪にあたる
- ・戦争後のガザ地区住民のシナイへの移住を提案するイスラエルの文書の公開
- ・病院を爆破するという脅迫... 数十人の殉教者と負傷者を出した集中夜間襲撃
- ・シン・ベトが警告入植者の攻撃により、軍は兵士をヨルダン川西岸に派遣せざるを得なくなった
- ・ジェニンで占領軍に射殺された4人の殉教者
- ・逮捕2- 占領軍によるデイシェ・キャンプ襲撃で3人が負傷
- ・ヨルダン川西岸での逮捕キャンペーン
- ・アルアウジャ交差点にパレスチナ支援物資第8陣を送る
- ・ネトヴォット入植地の民家にミサイルが命中
- ・イスラエルがレバノン南部のアイタ・アル・シャブの町郊外を爆撃
- ・ガザの健康殉教者の数は8,306人に増加
- ・ガザ民間防衛テル・アル・ハワで起きていることはジェノサイドであり、ホロコーストである
- ・アル・カッサムがベイトラヒアの北西で占領軍を奇襲
- ・占領軍がガザ地区から女性兵士を解放したと主張

**10月31日**

- ・両国の高等教育部門で439人の殉教者
  - ・UNRWA：作業を続けることは不可能であり、ガザへの援助物資搬入システムは失敗に終わる運命にある。
  - ・10月7日以降、イスラエル人の死者は1,538人を超えた。
  - ・レポートネタニヤフ首相、ガザからの難民を受け入れるようエジプトに圧力をかけるよう欧州諸国を説得しようとした
  - ・占領軍がガザの病院周辺への爆撃を強化... “患者の処刑”に対する国際的警告も
  - ・開戦25日目：空襲、陸襲、海襲の連続で数十人の殉教者と負傷者
  - ・ヨルダン川西岸地区での逮捕
  - ・占領軍は地上侵攻を拡大し、ガザの300の標的を攻撃すると主張している。
  - ・占領軍が『マアン通信』編集長宅を襲撃、息子を逮捕
  - ・エジプト当局、パレスチナ支援物資第9陣をアウジャ交差点に送る
  - ・ネタニヤフ首相、対ガザ戦争は第3段階に入ったと発表
  - ・サルフィット占領軍、ファルカ村の土地数百ドゥナムを没収
  - ・占領軍、イエメンからエイラート上空を通過する行進の阻止を発表
  - ・エルサレムで逮捕者続出
  - ・続く包囲- 入植者がアル・アクサを襲撃
  - ・アル・カッサム、ガザ北部と南部で占領軍との激しい衝突を確認
  - ・英首相、ガザ停戦を求めた政府補佐官を解任
  - ・UNRWA：ガザでの殉教者の70%は子供と女性だった
  - ・ガザの殉教者数は8,525人に増加
  - ・住宅地の破壊- 占領軍の戦車がカラマ地区に到達し、サラ・アルディン通りを横切る
  - ・ガザの健康ジャバリアの死傷者数は最大かもしれない
- 11月1日**
- ・保健省：ガザ地区とヨルダン川西岸地区で8,610人が殉教し、23,000人以上が負傷した。
  - ・4人の負傷者と大きな被害アシュドッドにロケット弾2発落下
  - ・占領軍機がヌセイラート・キャンプの住宅2棟を爆撃し、数十人の殉教者と負傷者を出した。
  - ・ガザでのレジスタンスとの衝突で兵士2人が死亡、他の兵士も重傷を負っ

- た。
- ・イスラム系アメリカ人からバイデンへ：ガザ停戦なくして賛成票なし
- ・ポリビア、イスラエルと国交断絶
- ・占領軍がジェニンのファタハ地区書記を逮捕
- ・アメリカ政府関係者が明かす：この任務のために数十人のコマンドがイスラエルにいる
- ・予想される人道的災害... 健康アル-シファ医療施設は明日サービスを停止する
- ・トゥルカウムで市民が占領軍の銃弾で死亡
- ・ガザ戦争26日目：殉教者、負傷者、そして地上侵攻は続く
- ・占領空軍によるジェニン空爆で3人の殉教者
- ・占領軍は、ガザで兵士9人が死亡、4人が負傷したと発表した。
- ・ヨルダン川西岸での逮捕キャンペーン
- ・標的地域の囚人と解放囚- 家屋を襲撃し、“金、車、金貨”を没収する。
- ・エジプト、ガザからの負傷者受け入れのためラファ国境を開放
- ・エジプト当局、アウジャ交差点にパレスチナ支援物資第10陣を送る
- ・エジプト、イスラエル、ハマスが外国人パスポート保持者の避難許可に合意
- ・イスラエル、装甲車標的の死者数が10人になったと発表
- ・ガザ地区からの負傷者の第一陣がエジプトの病院に収容された。
- ・ガザ侵攻開始以来の殉教者8796人
- ・ガザ地区北部における占領軍兵士の死者数は14人に上った。
- ・健康ガザ侵攻による殉教者8,850人、負傷者約24,000人
- ・アル・カッサムがイスラエルの標的に対する一連の攻撃作戦の実施を発表
- ・ガザでの戦闘で死亡したイスラエル軍兵士の数は16人に上る。
- ・ガザ地区への連続空襲で数十人の殉教者と負傷者

**11月2日**

- ・国連：イスラエルによるジャバリア・キャンプ爆撃は「戦争犯罪に相当する可能性がある
  - ・米国防総省が対ガザ戦における自軍の位置と役割を明かす
  - ・イスラエルの安全保障代表団がエジプトを訪問し、2つの重要なファイルについて話し合った。
  - ・アル・カッサム・ブリゲードガザ北西軸で戦車とブルドーザーを標的にした。
  - ・バイデン：“人質”を取り戻すために、ガザでの人道的停戦が必要だ
  - ・戦争27日目：ガザ地区への激しい空襲とジャバリアの殉教者
  - ・ヒズボラ、イスラエルの無人機撃墜を発表
  - ・カルキリヤ襲撃時の殉教者と占領軍の銃弾による負傷者
  - ・占領軍ブルドーザーがベイト・ハニナのバラックとフェンスを取り壊す
  - ・トゥルカウム近郊で銃撃、イスラエル人死亡
  - ・ブリュッセルの米国大使館前で抗議行動、占領の侵略を糾弾
  - ・アムネスティ・インターナショナルが証拠を暴露：イスラエルはガザとレバノンで白リンを使用した
  - ・ヒズボラがメンバーの殉教を発表
  - ・ドイツがハマスの活動を禁止、サミドゥーンを解散
  - ・エジプト、ラファ交差点で米国人400人を受け入れる
  - ・ガザ北部の衝突でイスラエル軍将校が死亡、4人が重軽傷
  - ・ガザ戦争... 殉教者の数は9061人に上る
  - ・ガザ地区に投下された爆弾は2万5000トンを超えた。
  - ・バーレーン、駐イスラエル大使を引き揚げ、経済関係も断絶
  - ・アル・マカセド病院を襲撃し、ガザ地区の患者と同伴者を逮捕。
  - ・ヒズボラが無人偵察機2機でイスラエル攻撃、占領軍が対応
  - ・レバノンのアル・カッサム：我々はキリヤット・シュモナの入植地とその周辺を12発のロケット弾で爆撃した
  - ・アブ・オベイダ 我々は戦車大隊を撃破し、敵の死傷者数はもっと多い
- 11月3日**
- ・ヘブライ語メディア イスラエルは数時間の攻撃停止と燃料の持ち込みに同意する可能性がある



2024年8月16日 記事、特集、動画

(  
パレスチナの歴史におけるこの瞬間は、イスラエルの大量虐殺によってガザの英雄的な人々にもたらされた恐怖による極度の悲観主義と、高まる抵抗が解放という新しいパラダイムを生み出しているという相対的な希望の瞬間が組み合わさったものです。

故パレスチナの小説家エミール・ハビビは、別の文脈で、アントニオ・グラムシが「知性の悲観主義と意志の楽観主義」と呼んだものの間のこの矛盾を表現するために「ペスオプティミズム」という用語を作り出しました。

進行中の大量虐殺の恐怖の真っ只中、人は創造的な何かを思いつく能力を失っています。生き残ること、生き残ることだけが問題なのです。しかし、これは夜明け前の最も暗い瞬間です。

この「矛盾」は、故エジプトの詩人アハメド・ファード・ネグムの最高傑作「太陽が沈むなら」で見事に表現され、同志のシェイク・イマーム・イツサが作曲しました。

私たちは、21世紀の野蛮人の手によって私たちの祖国に何が起こるか分からず、大量虐殺の前にガザでこの歌を披露することに決めました。

この歌はハイダル・イードが歌っています

太陽が沈んだら

そして暗い波が世界中に広がったら

雲の海の中で

そしてあなたが

前方の道を見失ったら

ああ、歩く人よ

ああ、放浪者よ

あなたには方向がない

知恵の目以外には

<https://youtu.be/KfYztCek00A>

(パレスチナ・クロニクル)

- ハイダル・イードはガザ地区のアル・アクサ大学の英語文学部の准教授です。彼はこの記事のパレスチナ・クロニクルに寄稿しました。



# おいしいパレスチナ ライスプディング



アラビアのマスティックとローズウォーターを使った最高のライスプディング

ライスプディングは非常に一般的なデザートですが、基本的な材料は同じですが、他の文化によってもたらされた味は、パレスチナのバージョンとはまったく異なります。ライスプディングは実際には何世紀も前から存在しており、おそらく古代の米文化を持つ中国で生まれたものです。これには一部の食品史家が異論を唱えており、ライスプディングはおそらく古代の米文化と古代の砂糖文化を持つインドで生まれたと主張しています。

準備時間：10分 調理時間：20分 合計時間：30分  
収量：5人分 1x カテゴリ：デザート 方法：煮る 料理：

材料

- 米（できればエジプト米）カルローズまたはジャスミンを半分ずつ
- 水1カップ
- 牛乳3カップ
- 砂糖 ½ カップ
- コーンスターチ大さじ 1½
- アラビヤマスティックを挽いたもの小さじ ½ ~ 1
- ローズウォーター小さじ 1
- オレンジブロッサムウォーター小さじ 1
- シナモンパウダー、ピスタチオ、または他のナッツ（飾り用）（オプション）

手順

- 米を10分間浸す（オプション）か、冷水で米をすすいでデンプンを取り除きます。
- 鍋に米を入れ、1カップの水を注ぎます。
- 沸騰したら蓋をして弱火にします。
- 米が完全に炊けるまで15分間煮込みます。
- 米に2.5カップの牛乳を注ぎ、中火でかき混ぜ続けます。
- 残りの牛乳 ½ カップをコーンスターチと混ぜ、米と牛乳の混合物に注ぎます。
- ハンドグラインダーでマスティックを小さじ1杯の砂糖と一緒に挽きます
- 砂糖とマスティック（コショウボクの樹液 通販で販売されている）を加え、中火でさらに15分間かき混ぜ続けます。とろみが出て泡立ち始めます。
- 火を止め、バラとオレンジの花の水を加えます。
- 混合物を小さなボウルに注ぎ、約30分冷まします
- 冷蔵庫に入れます。冷蔵庫で1週間まで保存できます。
- エジプト米はジャポニカ米で、日本の米と同じです。

**守ろう！オリーブの木を カンバのお願い**

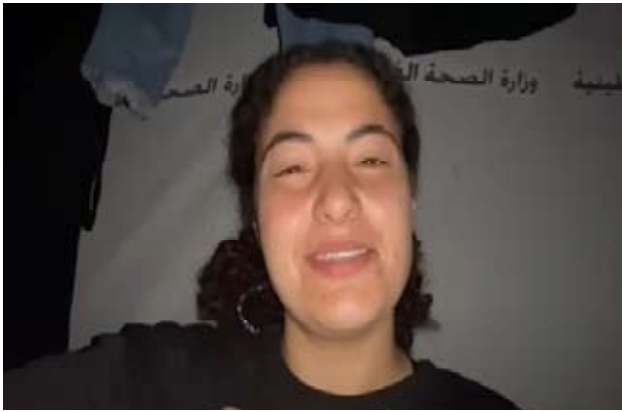
---

**オリーブ畑再生基金の目的**

土地を守ることは抵抗闘争である。パレスチナの農民の土地を守る闘い、生活を守る闘いを支援します。集まった基金は、パレスチナ農業労働委員会連合 (UAWC) に送ります。

郵便振替  
記号番号：00960-2-303500番  
名称：オリーブの会（オリーブノカイ）

他行等から振り込む場合  
店名（店番）：〇九九店（099）  
預金種目：当座  
口座番号0303500



エミー賞の背後にある団体がパレスチナ人ジャーナリスト、ピサン・オウダのノミネートを擁護  
 アメリカの団体は、親イスラエルの非営利団体などからの公開書簡に応え、AJ+ 寄稿者のノミネートを取り消すよう求めている。

## 今号の内容

- 停戦を望まないシオニスト、米国の策動・・・・・・・・・・1
- 偽りの楽観主義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- 暴力の中で生まれたイスラエル・・・・・・・・・・・・・・・・6
- ハニヤの暗殺は抵抗の決意を固める・・・・・・・・・・8
- パレスチナ連帯は停戦だけでなく・・・・・・・・・・10
- パレスチナ日誌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
- パレスチナの愛した歌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
- おいしいパレスチナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
- トピック・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16



長崎市からガザへの贈り物



民衆党大会の外でパレスチナへの政策変更を



8月17日京都 パレスチナ連帯



8月9日米国領事館前抗議行動、大阪



8月9日米国大使館へ長崎市への恫喝抗議、東京



8月20日テルアビブでの停戦を求め、 Netanyahu の退陣を求めるデモ